



ひ  
向

ま  
日

わ  
葵

学校だより 第4号  
令和4年 6月  
富山市立奥田北小学校

心を寄せて 植物(生き物)を育てる!

植物との対話 自分との対話 仲間との対話から学ぶ子供たち

校長 松倉 美華



朝顔に水をやる1年生

6月に入り、緑がよりまぶしく感じられる季節になりました。奥田北小学校の校庭には、子供たちが育てている様々な植物があります。1年生の「あきがお」、2年生の「育てたい野菜(ミニトマトやピーマンなど)」、3年生の「ホウセンカ」、4年生の「ヘチマ」、5年生の「稲(学校田、バケツ稲)」、6年生の「じゃがいも(プランター)」などです。

子供たちは登校するとすぐに水やりを始めます。一人一人が鉢植えに育てている学年は責任も重大です。毎朝、欠かさず水をあげながら、「大きな葉っぱになったね」「背が伸びたよ」「実がだんだん大きくなってよ。もっと赤くなってね」と、対話をしているようです。

ある日、1年生の教室では、朝顔の間引きの話をしていました。鉢に5つの種を植え、5つとも育てると鉢が混み合ってしまう、そのまま育てると大きく生長しないので、3つにしようという話があります。そして、2つしか芽が出なかった子供に一つ譲ってはどうかという話にもなりました。その時、2つしか芽が出ていないA君は、「3つになると、取り合いになるから、ぼくは2つのままでいい」と。今まで2つで分け合っていた水を、3つで分けなければならなくなったり、2つで育てていたところに1つ加えると、窮屈になったりすると感じたのでしょうか。もしくは、自分が植えた種を大切にしたいという気持ちもあったのではないかとも思いました。自分の心と対話しています。その後、担任は、「生活科の時間までに、自分はいつ育てたいのか決めてください」と話しました。仲間の話を受け止めて、自分でしっかりと考え、決定する子供たちです。

3年生以上は理科や総合的な学習の時間の一環として育てており、植物のつくりや仕組み、世話の仕方などを学びます。また、4年生は、5年生が4年生の時に育てたヘチマの「たね」をもらい、一人一人が種を植え、育てています。もう少し成長すると花壇に植え替えるそうです。5年生からのプレゼントをどのように受け止めているのでしょうか。心の寄せ方が成長の段階によって少しずつ変化していきます。



5年生からもらったヘチマの種で理科の学習を進めている4年生

5、6年生の委員会活動の一つ「環境・美化委員会」では、小学校の環境をよくしようと花苗を植えます。登校してきた全校児童が、気持ちよく学校での生活を始めることができるようにと願い、準備を進めています。どのようになるか楽しみです。

最後になりますが、2年生は、地域の野菜名人に野菜の植え方を教えてもらいました。今は、こんなに大きくなりました。もっともっと大きくなってほしいと世話をがんばっています。



植え方を教えてもらった2年生



花が咲き、実がなり始めたミニトマト